

子どもたちも教職員も笑顔が輝く

職員室にあるモニターで、最新の情報を共有しています



教職員の多忙さや長時間労働が全国的に問題になっています。本市でも、一部で過労死ラインといわれる月80時間以上の超過勤務がありました。市は、教職員がゆとりを持って児童生徒と向き合えるよう「市内一斉定時退校日」や「中学校ノー部活DAY」など働き方改革を進めています。

は、児童生徒の欠席連絡を、メールで行っています。朝の電話対応が減って、登校する児童生徒の様子が余裕をもって見ることができ、月・週単位での行事を、パソコンで共有している学校もあります。教職員全員がリアルタイムで確認でき、最新の情報を共有しています。

働き方の見直しが進むと、授業の準備の時間や児童生徒と触れ合う時間が増えます。教職員自身の心身の健康も保て、笑顔で子どもたちの前に立つことができます。引き続き、子どもたちも教職員も笑顔輝く学校づくりに取り組んでいきます。

◎教職員課 (☎0942・30・9215、FAX 0942・30・9719)

下田・浮島・城島小学校統合に関する検証結果報告

新しい友達と環境で広がる学び

令和3年4月、久留米市立下田小学校・浮島小学校は、城島小学校と統合しました。市で初めての小学校統合から1年が経過し、今回の事例を今後の取り組みに生かすため、市教育委員会は、成果と課題などについて検証。検証にあたり、児童や保護者、教職員へのアンケートや聞き取り、地域との意見交換を行いました。

だけでなく、さまざまな考え方に触れることで刺激を受け、互いに成長する姿も見られています。児童・保護者ともに統合を前向きに受け止めている意見が多かった一方、統合までの進め方などに課題も見られました。検証結果を踏まえ、今後よりよい教育環境の実現に向けて取り組みます。

◎学校教育課 (☎0942・30・9217、FAX 0942・30・9719)



多くの友達と一緒に学んでいます

困っている子どもたちの悩みを一緒に考える



病気の大人に代わり家事をする子ども

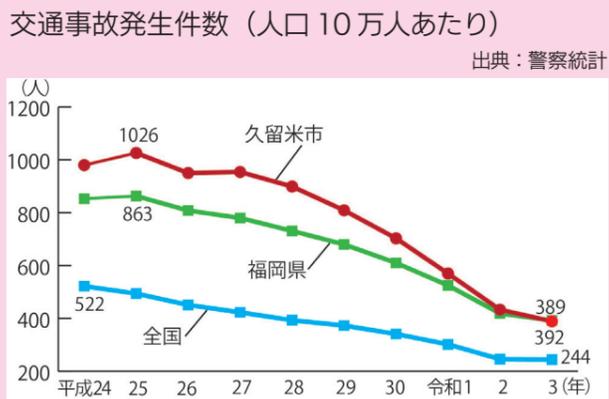
11月1日から、本庁舎16階の子ども子育てサポートセンター内に「ヤングケアラー相談・支援窓口」を設けました。「ヤングケアラー」とは、本来、大人が担う家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どもたちのこと。国の調査では、中学生で約17人に1人、高校生で約24人に1人という割合です。年齢などに見合わない責任や負担が、子どもの成長や学びに影響を及ぼします。本人や

家族に自覚がないことが多く、表面化しにくいといわれます。誰にも悩みを言えず、孤独感を抱えている人もいます。周囲が「ヤングケアラー」を理解し、支援できる環境づくりが大切です。相談・支援窓口では、当事者や家族、関係機関からの相談に、社会福祉士や保育士など専門職員が、問題解決に向け一緒に考えます。

■ヤングケアラー相談・支援窓口
☎0942・30・9302
※子ども専用フリーダイヤル
☎0120・870・552
月から金。8時30分～17時15分
(木曜は19時まで)

◎子ども子育てサポートセンター (☎0942・30・9302、FAX 0942・30・9718)

けがや事故を予防するポイントを全9回シリーズで紹介します。実践しましょう



すぐにできる予防策

☑ 夜、外出するとき 反射材を身に着ける



☑ 自転車に乗るとき ヘルメットを着用



セーフコミュニティシリーズ③ 交通事故防止

夜間や自転車の事故に注意

久留米市内の交通事故発生件数は、平成24年から令和3年の間で約6割減少しました。しかし、まだ全国の水準より件数は高く、夜間や自転車の事故も多い状況です。市は警察など関係機関と協力し、高齢者対象の交通安全講習や小学校などで交通安全教室を行っています。交差点ではしっかり安全確認する、無理な横断はしないなど簡単にできる取り組みで、自分の安全を守ることができます。

◎安全安心推進課 (☎0942・30・9094、FAX 0942・30・9706)